

平成19年度第2回ワークショップ

日 時 平成20年2月27日(水)

場 所 浜頓別町役場大会議室

テーマ：『**地域資源の掘り起こしと情報発信に関するワークショップ**』

情報提供 『**C Vプロジェクトについて**』

～ 宗谷農業改良普及センター 葛西主任普及指導員



〔内 容〕

国内外の農業情勢が一大転換期を迎える中、北海道農業・農村が発展していくためには、農産物を単に原材料の生産、移出だけに終わらせるのではなく、こだわりのある農産物づくりや加工による特産品づくりなど付加価値の高い農業を積極的に推進していくことが重要。そのため、生産から加工・販売まで一貫した体制の下で農産物の付加価値を向上させる地域内発型の取組を推進していくというのがプロジェクトの目的。

ちなみに、Cとは土地利用型(カロリー)、Vとは高付加価値型(バリュー)を表している。

具体的には

農産物の加工に取組む農場等や加工実践者等のネットワーク化を推進し、以下の事業に取り組む。

農産物や農産物加工品の販売店舗リスト・マップや地元農産物を使用した料理のレシピ集の作成、新たなレシピの開発などを行い、それらを基に「宗谷の味」PRキャンペーンを展開する。キャンペーンでは、販売店舗リスト・マップ、レシ

レシピ集の配布や試食会などを行い、一般の方はもとより、旅館やホテル、飲食店へもPRを行って行く。

各種イベントでの実践販売活動やPRパンフレットの配布などを通じ、販売店舗拡大に向けたPR活動を推進する。

レシピ集を活用し、料理実演会や試食会を行い「宗谷の味」の普及啓発を図る。

推進協議会としての関わりについて

推進協議会として特に何かをするという役割はない。プロジェクトでは推進協議会の取組をPRの際に活用する、推進協議会ではプロジェクトで作成した販売店舗マップやリスト、レシピなどを活用して事業を展開するというようにお互いに情報交換しながら「宗谷の味」や地域資源の普及啓発を図っていく。

未利用資源の発掘と昨年出た意見の再評価、新たな資源の発掘

昨年出してもらった体験や特産品のリストを提示し、取り組める体制が整ったものはないか検証するとともに、新たな資源の発掘について意見を出し合った。

体験関係

ホタテ釣り体験、水生生物に触れる体験、サンマ漁体験、ホタテ貝剥き体験、乗船体験、牛乳豆腐づくり体験、家族で船釣り体験、クローバーの丘の活用など

特産品関係

牛乳豆腐、活ホタテ販売など

意見として、ゴールデンウィークには町外に遊びに行く人も多いが、逆に訪れる人も多いのでこの時期のPRを考えてはどうかなどといったものも出てきており、体験観光マップの見直しや町民体験モニターツアー内容検討と合わせ、3月開催の第3回ワークショップで検討していく。

情報発信機能の強化について

現在の情報発信としては、現在体験観光マップの観光施設や宿泊施設等での陳列、町ホームページでの紹介、道の観光PRイベントで紹介を依頼が主な手段である。今後どのような情報発信に取り組んでいくか協議した。

町のホームページでは、観光情報の部分からグリーンツーリズムに関するすべての情報にたどり着けるように、またそれらすべての情報に2クリックでたどり着けるよう検討する。また細やかに情報を更新する努力をしていく。

その他、主要観光地に体験観光に係る看板を設置して、次にどこに行けば何ができるかを示してはどうかという意見もあり、看板が良いのか他の方法がないのかを含め、今後検討する。

報告

2月の札幌雪まつり期間中に、道庁赤レンガ庁舎で行われた「宗谷の食と観光のPRイベント」、6月に稚内市で開催される予定の稚内オオナゴ&フードフェスタについて報告をいただいた。

宗谷の食と観光のPRイベント

昨年 4,000 人の来場であったが、今年は 5,700 人が訪れてくれた。浜頓別町からはミルクジャムやチーズを試食品として出展してきたが好評であり、帰宅後注文してくれた人がいたという話を聞いているとの報告。

稚内オオナゴ&フードフェスタ

6月に稚内市で開催予定。オオナゴだけでなく、最北端クロスロード交流会会員による特産品の販売や毎年行っている最北端農村ふれあいラリーのPRなども合わせて行えるよう現在検討中。